



自然共生サイト取組事例と 申請に向けたポイント

2026年3月

(復習) 地域生物多様性増進法に基づく「自然共生サイト」とは

新



令和7年4月施行

ネイチャーポジティブ実現に向けた取組として、**地域における生物の多様性の増進のための活動の促進等に関する法律**に基づき、企業の森や里地里山、都市の緑地など民間の取組等による生物多様性を増進する活動計画を国が認定する制度。認定された活動の実施区域を「**自然共生サイト**」と呼びます。

旧

場所を認定

環境大臣が認定

生物多様性の**維持のみ**が対象

環境省の**委託先**が前期・後期で受付審査



新

活動計画を認定

法に基づき主務大臣（**環境・農水・国交**）が認定

維持だけでなく、**回復・創出も対象**に

環境再生保全機構（ERCA）が通年受付審査

森林・里山・農地



南部町の里地里山ビオトープ

工場・施設の緑地



パナソニック草津工場「共存の森」

都市の緑地・公園



三井住友海上駿河台緑地

河川・沿岸域



吉崎海岸自然共生サイト

(復習) 自然共生サイト認定の類型

新

2つの計画認定制度

増進活動実施計画

NPO、企業、個人等が作成する里地里山の保全、外来生物の防除、希少種の保護といった生物多様性の維持・回復・創出に資する活動計画

連携増進活動実施計画

市町村がとりまとめ役として多様な主体（NPO、企業等）と連携して行う活動計画
生物多様性維持協定※が活用できる

※20年の協定締結で相続税・贈与税に係る評価額の20%控除

3つの活動タイプ

維持タイプ

現状
在来種



既に生物多様性が豊かな場所
を維持する活動

保護地域との重複を除き
OECD国際データベースに登録

回復タイプ

外来種
荒れ地



在来種



生物多様性が損失した場の
多様性を回復する活動

活動の結果、サイトに生物多様性の価値が認められるようになった場合、「維持タイプ」として変更申請が可能

創出タイプ

現状
荒れ地・埋立地
など



生物多様性を欠いた場に新たに
生物多様性を創出する活動

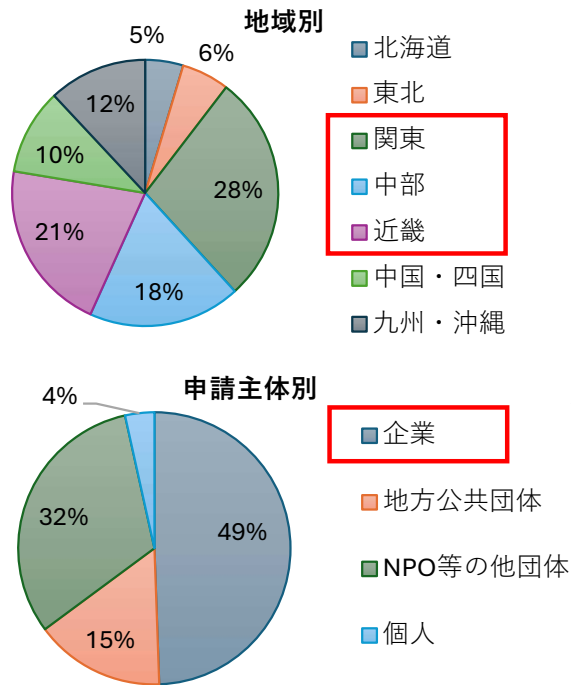
(復習) 地域生物多様性増進法に基づく認定

令和7年度認定累計（第2回まで）

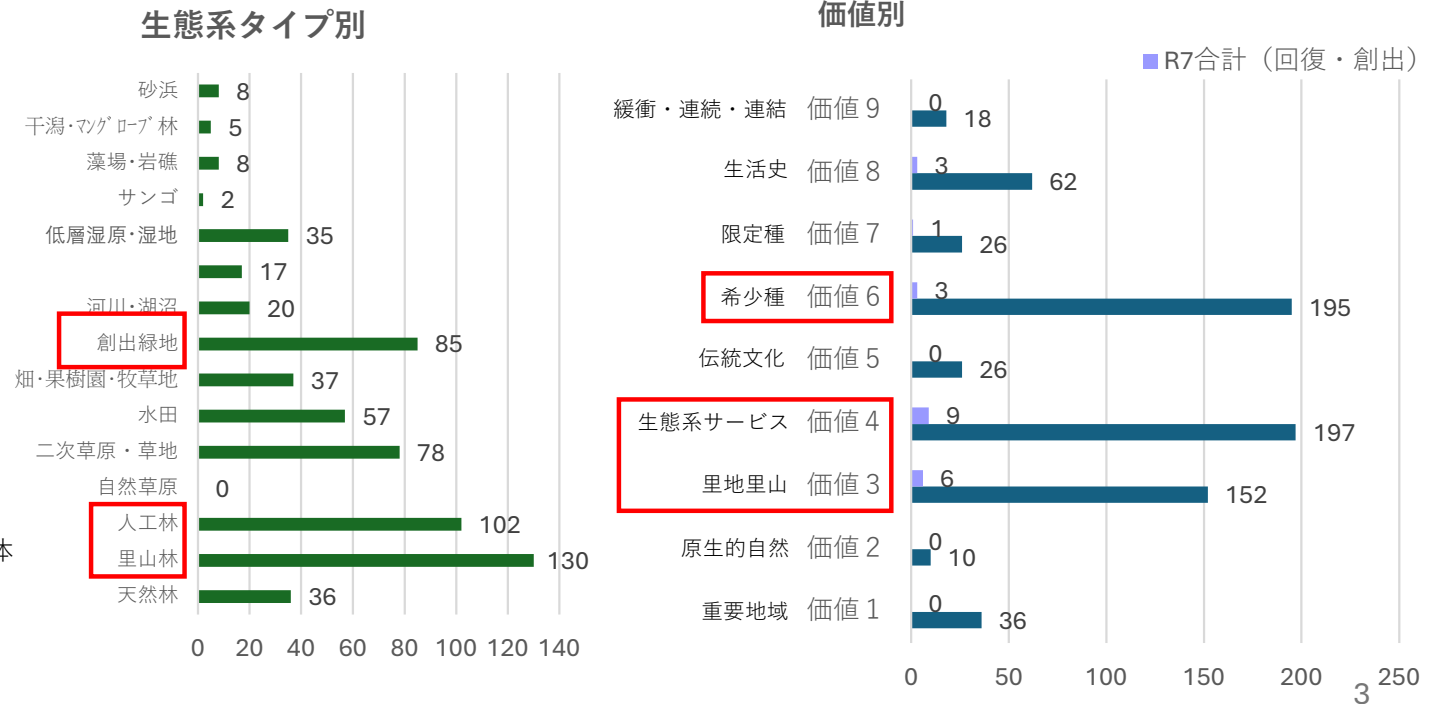
	維持	回復	創出	計
増進活動実施計画	241	5	4	250
連携増進活動実施計画	8	1	—	9
合計	249	6	4	259

	従前の自然共生サイト（～令和6年度）	
	法定外	法定自然共生サイト（令和7年度～）
～令和6年度	328か所、9.3万ha	—
令和7年度第1回	法定外226か所、 8.5万ha	移行分81か所、0.7万ha 新規120か所、0.6万ha 計201か所、1.3万ha
令和7年度第2回		移行分21か所、0.1万ha 新規37か所0.6万ha 計58か所、0.7万ha
自然共生サイト合計	485か所、10.5万ha	

地域別・申請主体別の認定計画数（累計）



生態系タイプ別・生物多様性の価値別の認定計画数（累計）



自然共生サイト認定 取組事例について 【認定者の声】



令和7年度第1回認定
「鳩吹山」
株式会社やまとわ 様



令和7年度第1回認定
「銀寄栗のふるさと」
御菓子司津村屋 様

自然共生サイト認定制度に認定を受けた方たちの「想い」

- なぜ、その場所で「生物多様性を増進する活動を実施するのか」活動をはじめたきっかけ。
- なぜ、自然共生サイト認定制度に申請をしようと思ったのか
- 未来に馳せる「想い」

自然共生サイトの認定 取組事例について 【認定者の声】

事例 1



【サイト名】
鳩吹山（はとふきやま）

【申請者名】
株式会社やまとわ

【場所】
長野県伊那市

【サイトの概要】
里山林、人工林、二次草原

【面積】
55.26ha

【活動をはじめたきっかけ】

かつて**地域の人**が**林業**や**山菜採り**で親しんだ里山だったが、人が入らなくなり**荒れ始めた**。価値ある山を失いたくないとの思いから、再び親しまれる里山として甦らせ、**森と人の絆を結び直そうと決意**。

【まず最初にやったこと】

鳩吹山の**個性、価値**を知るため、**植生や猛禽類、水資源、地形地質**などを調査

生物多様性の価値

価値3：里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

価値4：生態系サービス提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物からなる健全な生態系が存する場

価値6：希少な動植物が生息生育している場又は生息生育している可能性が高い場



希少な猛禽類



【次のステップ】

調査結果をもとに**15年後の姿を描く「里山コンセプトマップ」**を作成。

遊びの森、カラマツの森、見晴らしが良く明るい森など7つのゾーンごとに役割を定め、バックキャストで整備計画を実施。

【活動内容】

- ・ 松枯れ病の拡大前にアカマツを間伐し、“経木”の材料として有効活用する。
- ・ ハチクマ・クマタカなど猛禽類が生息し続けられる環境整備とモニタリングを行う。
- ・ 山頂付近の草地生態系を維持・保全する。
- ・ 民間企業や市民向けに森林環境教育や体験活動を提供する。

「①森を知る（森の調査）」

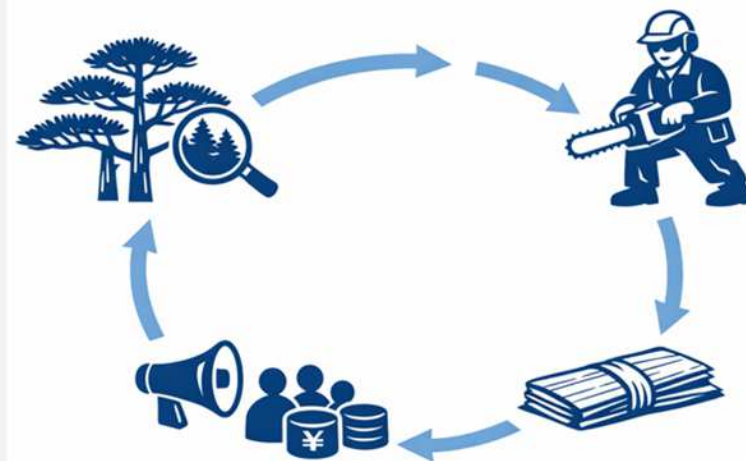
「②森に手を加える（森林整理・希少種の保全）」

「③森からの恵みを受ける（ビジネス創出）」

「④森に還元する（情報発信・社会認知・利益還元）」

「①に戻る」

という循環モデルを実施。



イメージ図：経木



「保全と経済の両立」を目指す
森に新たな付加価値を

【なぜ、自然共生サイト認定制度に申請しようと思ったのか】

自分たちも含め、

具体的に「**覚悟を持った場所**」が日本中に増えていくことに興味を抱いた。

【未来へ馳せる「想い」】

- ・ 自然共生サイトに認定された団体と意見交換し、人がどう関われば**自然がよりポジティブになり、同時に暮らしも豊かになるのか**を見極めていきたい。
- ・ 他の団体と連携してネットワークを形成していきたい。

【これから活動や自然共生サイトに申請を考えている人に伝えたいこと】

生物多様性のスペシャリストでなくても、

その自然が『好きだ』という気持ちを大事にして欲しいです。

それさえあれば、多くの大切な仲間とつながることができます。

堂々として前へ進みましょう！

【企業が環境保全をすることについて】



自然から受けた恩恵を企業活動に活かしているということ
を理解することで、環境保全に前向きになれる。

自然共生サイトの認定事例について 【認定者の声】

事例 2



【サイト名】
銀寄栗のふるさと

【申請者名】
御菓子司津村屋

【場所】
大阪府豊能郡能勢町

【サイトの概要】
里山林、人工林、二次草原、草地、水田、畑、
果樹園、牧草地

【面積】
0.8323ha

【活動をはじめたきっかけ】

認定者は和菓子店の店主。

店の看板商品に使用する銀寄栗が**農家高齢化により年々収穫量が減っている**ことを知る。生産者から「**自分で栗を育ててみないか**」と声をかけられる。

【まず最初にやったこと】

約700㎡の区画を借り受ける。

講習会で農業の基礎を学び、先代にならって農薬に頼らない環境保全型の栽培方法を選択。

【次のステップ】

地主の提案もあり、栗園を含む山全体の管理を行う。

道や水路の整備、間伐作業も開始。



荒れていた畑・山が整備され、様々な生き物が姿を現すように



生物多様性の価値

価値3：里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

価値4：生態系サービス提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物からなる健全な生態系が存する場

価値5：伝統工芸と伝統行事といった地域の伝統文化のために活用されている自然資源の共有の場

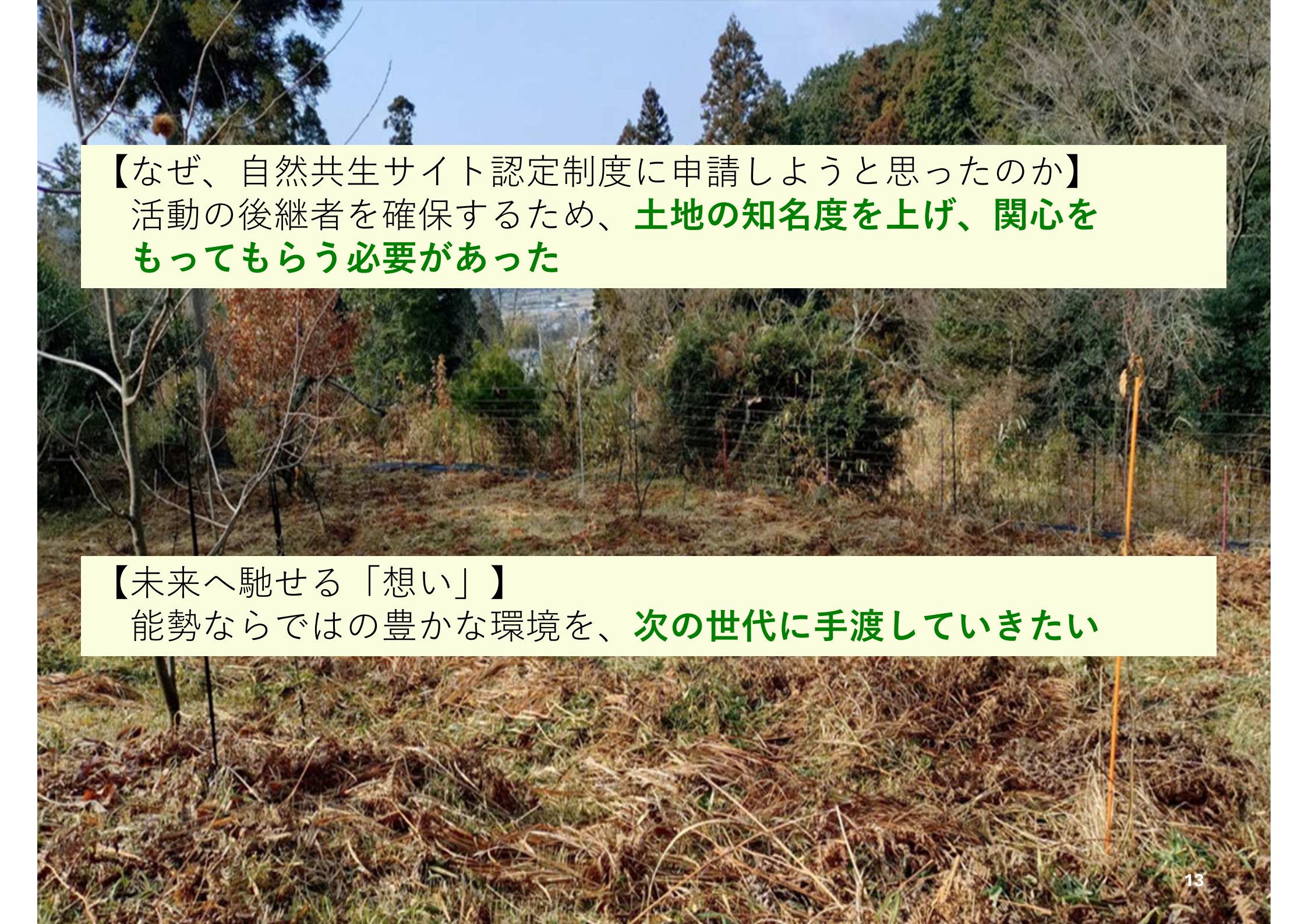
価値6：希少な動植物が生息生育している場又は生息生育している可能性が高い場

価値7：分布が限定されている、特異な環境に依存するなど、その生態に特殊性がある種が生息生育している場又は生息生育している可能性が高い場

【活動内容】

- ・ 栗園は、生き物に配慮して**無農薬栽培を実施**する。
- ・ 週に2日程度、下刈り・施肥・剪定・防獣柵の点検・収穫などの管理作業を行う。
- ・ 水田跡地・ため池・水路・二次林ゾーンは、希少な生物が生息しているため、**泥かき・間伐・下草刈り・害獣駆除等の管理**を行う。
- ・ 草原地ゾーンは、**多様な草原環境を創出するため、通路以外は冬期に下草刈り**を行う。

農業×生物多様性

A photograph of a natural site, possibly a forest or a field, with a fence in the foreground. The background shows a dense forest of trees, some with autumn foliage. The sky is clear and blue. The text is overlaid on a yellow background.

【なぜ、自然共生サイト認定制度に申請しようと思ったのか】
活動の後継者を確保するため、**土地の知名度を上げ、関心をもってもらう必要があった**

【未来へ馳せる「想い」】
能勢ならではの豊かな環境を、**次の世代に手渡していきたい**

【活動をしていて嬉しかったこと】

【自然共生サイトに認定を受けて、伝えたいこと】



環境に配慮した製品づくりを継続。
想いを理解して、末永いお付き合いを。

申請書作成の留意点やポイントについて（1 / 4）

1. 生物多様性の価値があることを示す（維持タイプ）

◆ 生物多様性の価値は1～9のうち1つ認められれば、認定される

詳細は「地域生物多様性増進活動の手引き 別紙2 生物多様性の価値」を参照

価値の概要	審査のポイント
価値1 重要地域	<u>重要里地里山、重要湿地、重要海域、特定植物群落、巨樹巨木林</u> のいずれかに該当
価値2 原生的な生態系	<u>植生自然度9、10</u> に相当 自然に散布した種子等により成立し、人為的影響を受けたことがない、または現状でその痕跡が見えず、自然の遷移にゆだねられた状態
価値3 里地里山	動的・モザイク的な土地利用の結果、 <u>二次的自然に特有の生態系が成立した場</u> 人の適切な関与がなければ劣化・消失の恐れのある場 二次林・二次草原（参考：植生自然度4，5，7，8）
価値4 生態系サービスを提供する健全な生態系	<u>在来種を中心とした多様な動植物の生息生育しており、生態系サービスを提供する場</u> その場所本来の生態系から乖離しなければ、希少種に限らず普通種も該当する 確認されるべき種が確認されない、外来種が多い場合には、価値として認められない
価値5 伝統文化	<u>地域の伝統文化</u> のために持続可能な活用がなされ、 <u>自然資源の共有の場</u> となっている

申請書作成の留意点やポイントについて（2/4）

価値の概要	審査のポイント
価値6 希少種	環境省・地方公共団体の <u>レッドリスト</u> 又は <u>レッドデータブック</u> に記載の種 法令・条例や行政文書において希少性が示されている種
価値7 限定種	分布が限定されていたり、 <u>特異な環境に依存する種</u>
価値8 生活史	越冬、休息、繁殖、採餌、移動等の <u>生活史に重要な場</u> 大規模な渡り鳥の中継地のほか、その他動物種についても上記の利用がなされており、 <u>周辺に比べて重要な場</u> であれば該当する場合がある
価値9 緩衝、連続・連結性	<u>緩衝機能、連続性、連結性</u> のいずれかを有する事（保護区域に包含されるサイトはいずれにも該当しない）

緑があればOKということ
ではない

- ◆ 実施区域で確認された動植物種（植物、昆虫、鳥類、哺乳類等）の調査結果
根拠として概ね5年以内の調査リストの提出等が必要
- ◆ 外来種、園芸種が大半の場合は、生物多様性の価値としては認められない
単に、色々な動植物が生息・生育している状態ではなく、その地域ならではの生物相が
展開している状態が求められる
- ◆ 価値によっては、希少種・重要種に限らず、在来の一般的な種でも評価の対象となる₁₆

申請書作成の留意点やポイントについて（3 / 4）

2. 具体的な目標と活動計画を示す（特に、回復タイプ、創出タイプ）

- ◆ 回復タイプ、創出タイプについては、生物調査データの提出は不要。その代わりに、明確な目標、実現可能な活動計画が重視される。
- ◆ **目標**は、以下を踏まえて設定することが必要
 - ・実施区域の現況
 - ・実施区域の土地利用の変遷
 - ・実施区域の周辺の状況
 - ・実施区域の課題（外来種・鳥獣被害等）
- ◆ **活動計画**は、目標達成に向けた、具体的な活動手法、タイムスケール、専門家などとの協力・連携による実施体制を示すことが重要
- ◆ 回復・創出タイプは、生物多様性が豊かになった時点で、維持タイプへ変更申請しその後、OECM登録
- ◆ なお、回復・創出タイプは、申請サイトが元々持つ環境が評価基準のため、以下の価値は対象外
 - ・回復タイプ：価値 1（重要地域）
 - ・創出タイプ：価値 1（重要地域） 及び 価値 2（原生的な生態系）

申請書作成の留意点やポイントについて（4 / 4）

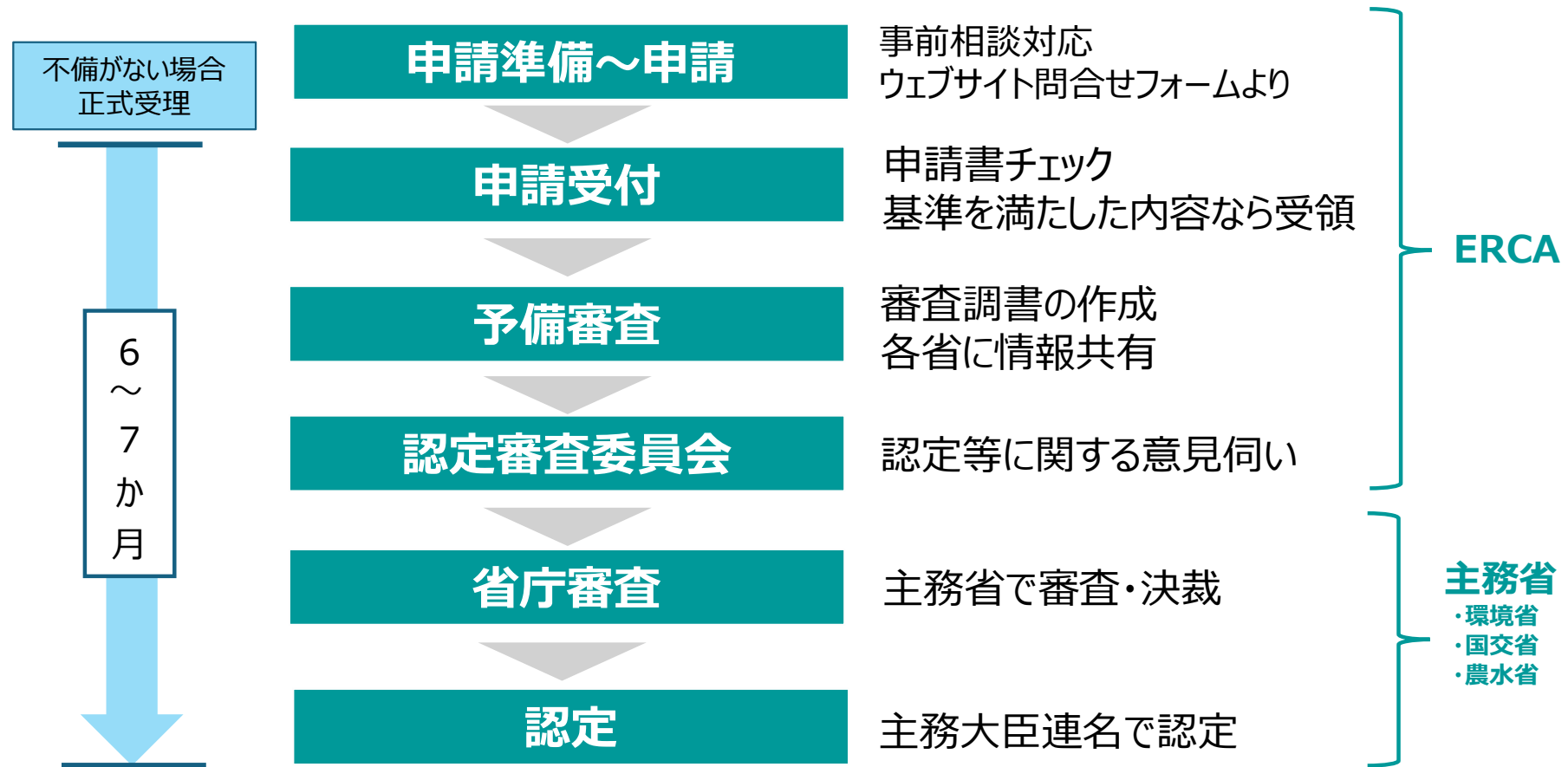
3. 土地所有者・公物管理者の同意、法令遵守が必要

ガバナンスを確認

- ◆ 実施区域の**すべての土地所有者からの同意**が必要
- ◆ 実施区域において**法令条例を遵守**しているかの確認が必要
特に、**森林法に係る地域（保安林、地域森林計画対象民有林）**に関しては
事前に重複を確認し、様式1-2の基本的事項 番号3に明記すること。
- ◆ 実施区域が**公物管理区域と重複する場合、隣接する場合は、
公物管理者の確認・同意が必要**
特に、**治山事業施行地・漁港区域・保護水面・国有林**については、「**同意書**」が
必要です。また、**漁業権区域**は、漁業権者からの「**同意書**」および管理する自治体から
の「**確認書**」も必要です。

確認が必要な管理区域		
河川区域	港湾関係区域	都市公園区域
砂防関係区域	漁港区域	道路区域
治山事業施行地	漁業権区域	
海岸関係区域	保護水面	

申請から認定までの流れ



<令和7年度スケジュール>

	第1回	第2回	第3回
認定に間に合う提出期限	4月末	7月末	10月末
認定審査委員会	7/16-18,22-24 (6日間)	10/31、11/4-5 (3日間)	1/28,30、2/2-3,5-6 (6日間)
認定時期	9/16	12/16	3月
認定件数 (申請件数)	201	58	(110)

令和8年度の認定審査スケジュール

令和8年度は、年間3回の認定を予定しています。

申請は通年で受付けておりますが、有識者審査委員会の開催時期により認定時期が変わります。

	第1回	第2回	第3回
認定に間に合う提出時期	1月末	5月末	9月末
認定審査委員会	3～4月	7～8月	11～12月
認定時期	6月	10月	R9.2月

※提出書類に不備がある場合は修正作業が発生し、認定回が後ろ倒しになる可能性があります。

※現時点の予定につき変更となる可能性があります

認定後について

- ◆認定後は、環境省「生物多様性見える化マップ」(いきものログとの連携)を通じて、少なくとも1年に1度以上、活動の実施状況を報告いただきます。
- ◆事務局は、認定サイトの活動実施状況を確認します。
- ◆見える化マップでは、生物モニタリング情報の入出力が可能で、また、認定された自然共生サイトの情報を確認できます。

<https://www.biodiversitymap.env.go.jp/>

地域の守り・育てたい自然や、目標を見てみよう！

国際目標であるネイチャーポジティブ*の実現・30by30目標*の達成に向けては、地域の守り・育てたい自然を保全する地域を確認してみましょう。

*ネイチャーポジティブ 2030年までに自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損失を止め、反転させること

*30by30目標 2030年までに陸と海の30%以上を保全する目標



生物多様性情報を見る

保護地域、自然共生サイト、生物多様性保全上効果的な場所等を確認できます。

詳しく見る



自治体毎の保全状況・目標を見る

自治体における保全状況や、目標などを確認できます。

準備中



生物分布・生物種

生物分布を検索した
認できます。

令和7年度 ERCA研修事業 (1/2)

自然共生サイト認定制度の理解深化、認定後の管理促進等のため、研修・セミナー・説明会の実施

具体的活動事例を知るためのサイトビジットや人的ネットワーク化を促すための参加者の交流も実施

■ 自然を活用した地域課題の解決研修 (米子)



■ 活動計画策定研修 (大阪)



■ 活動計画策定研修 (阿蘇)



■ 増進活動技術研修 (東京都江東区)



■ 昆虫モニタリング研修 (千葉)

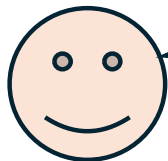


■ 昆虫モニタリング研修 (事後学習eラーニング)

普通種がなぜ重要か？

1. 普通種でもいつのまにか絶滅する
→ 4つの危機要因
2. 普通種が人類に自然の恵みをもたらしている
→ 生態系サービス(=自然の恵み)
例) 作物の送粉、害虫の防除、遺骸有機物の分解

参加者の声



- 町・土地所有者・保全活動実施主体の3者の連携のための協定を締結することができた。
- 実際のフィールドワークでの網や道具の使い方が役に立った！
- 自然共生サイトの認定基準を見学で実感できた。

令和7年度 ERCA研修事業 (2/2)



eラーニング・・・生物多様性に関する基礎知識や取組むためのヒントを得る

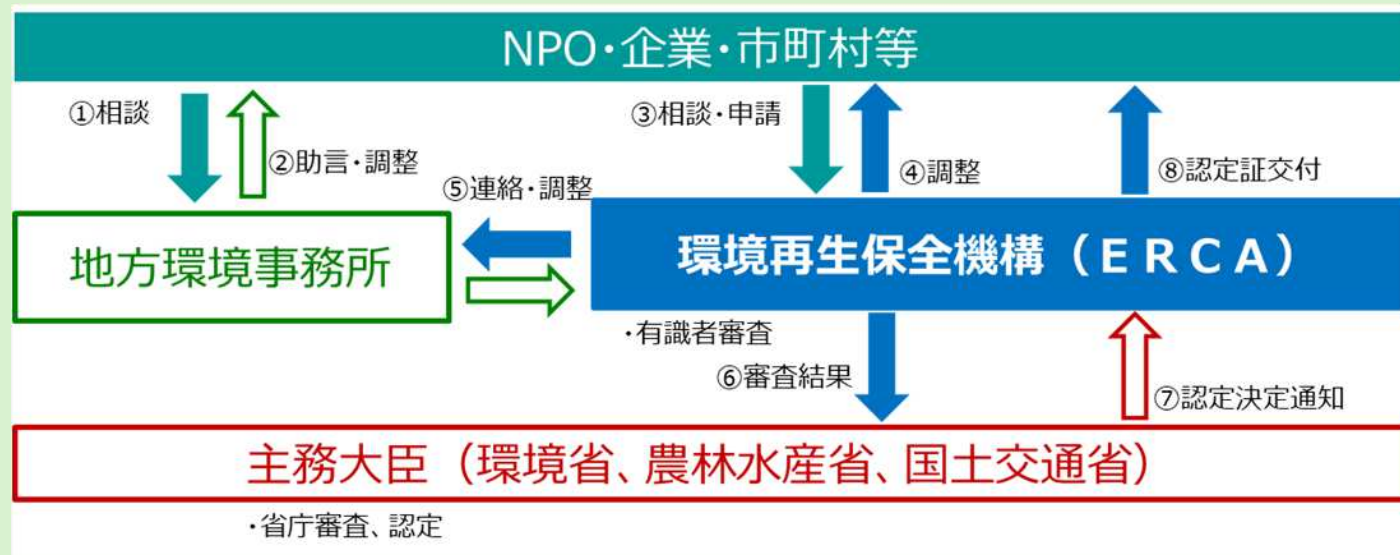
■活動計画策定研修 (主に企業向け)



■自然を活用した地域課題の解決研修 (主に地方公共団体向け)



認定事務のスキーム & 申請のご相談はお気軽にどうぞ



環境省

活動のご相談は地方環境事務所へ

環境省地方環境事務所では、自然共生サイトの申請に係るサポートを行っています。

- 目標の設定や活動手法の選定等に関する技術的な助言
- 特例（自然公園法その他の環境省が所管するものに限る。）の活用に必要な手続について



自然共生サイト 総合窓口



独立行政法人

環境再生保全機構 自然共生部

Environmental Restoration and Conservation Agency

〒212-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町1310ミュージアム川崎セントラルタワー
TEL:044-520-9543 E-mail:30by30@erca.go.jp



相談・受付について
(ERCAホームページ)